

【参考資料2】 城南地区の今昔調べ

- 1 教育
- 2 貨幣
- 3 群馬県の成立まで
- 4 服装
- 5 食べ物
- 6 明かり(照明)
- 7 子どもの遊び
- 8 数え歌とわらべ歌
- 9 大人の娯楽
- 10 移動手段
- 11 方言

※1～10 新嶋和江 記述・編集

- 11 「荒砥川(今井町生涯学習推進委員会編集)」 今井町発行
「郷土史荒砥村」 荒砥第二尋常小学校郷土史調査研究部会

1 教育

- ・5人組帳前書、お触書き:庶民向けの法令の一種
- ・生活規則などの撫育→病気、怪我などをさせないように常に気を配ったり、欲しがるとは何でも与えたりして子どもを大切に育てること →人倫強化策
- ・村役人によって読み聞かせ

◎寺子屋

- ・天保年間から明治にかけて、寺子屋教育が盛んに行われた。
- ・寺子屋の師匠:農民(名主)、僧侶、武士、医師、神官、商人、学者

<例>西大室:井上正香(医師)が天保年間に私塾を開き、近隣の子弟を指導した。

飯土井:石綿常盤(医師)私塾を開く。

1872年(明治5年)仏式葬儀を神儀式葬祭に変更した。

上増田:木村彦九郎(大塚田)、奈良喜平治(宮原)、福田嘉右衛門・宗十郎(東組)

筑井:六本木東雲、小屋卯兵衛・周助・宇平治

小屋原:法印熊谷義海、藤井巳之右衛門、仲村文右衛門、細谷林造・源貢

二之宮:六弥太讚岐守(神官)、良榮法印(僧侶)、覚道法印(僧侶)、田所勇八郎(農民)、

岡孝十郎(農民)、岡登喜太(農民)、内田喜平(農民)、内田伊平(農民)、

関口林兵衛(農民)

荒口:阿部耕雲(農民)

◎小学校

- ・1873年(明治6年)荒口の観音寺に荒口学校(のち荒口小学校)が開設され、10月に開校式が行われた。
- ・1874年(明治7年)増田小学校(蓮華院内)、筑井小学校(安養院内)、二之宮小学校(慈照院内)が開校した。
- ・1875年(明治8年)大室小学校(最善寺内)が開校した。
- ・1879年(明治12年)登美多小学校(正法院内)が新設された。
- ・1880年(明治13年)荒口小学校(観音寺内)が廃され、荒子小学校が新設された。
- ・1939年(昭和16年)各小学校は国民学校に改称した。
- ・1947年(昭和22年)新制教育制が実施され、各国民学校は小学校に改称した。

◎中学校

- ・1898年(明治31年)各尋常小学校に高等科が設置された。
- ・1902年(明治35年)実業補習学校が設置された。
- ・1926年(大正15年)青年訓練所令が公布され、各小学校単位に青年訓練所が設けられた。
- ・1935年(昭和10年)実業補習学校と青年訓練所が合併し、各小学校内に青年学校が発足した。
- ・1947年(昭和22年)新制教育制が実施され、青年学校と高等小学校に代わる新制中学校として、荒砥中学校と木瀬中学校が開校した。

※出典:「まんが前橋の歴史」前橋市 1992

「木瀬村誌」木瀬村誌編集委員会 1995

2 貨幣

- 683年 天武天皇12年に日本で初めて銅銭「富本銭(ふほんせん)」が鑄造された。
708年 「皇朝十二銭」のうち銅銭「和同開珎(わどうかいちん)」が最初に鑄造された。
958年 「皇朝十二銭」のうち十二銭目の「乾元大宝(けんげんたいほう)」が鑄造された。
1411年 中国明朝で鑄造された銅銭「永楽通宝」が、室町時代の日明貿易により大量に輸入され江戸時代初頭まで流通していた。
1527年 豊臣秀吉により、金・銀製の「天正通宝」が鑄造された。
1592年 豊臣秀吉により、銀・銀製の「文禄通宝」が鑄造された。
1601年(慶長2年) 徳川幕府は金・銀貨を鑄造し、代表的なのは金貨「慶長小判」である。
1636年(寛永2年) 銅銭「寛永通宝」を広く庶民に流通するように鑄造し、この銅銭は幕末まで使っていた。

- 1871年 「新貨条例」という法律が制定され、「円」という単位ができた。
1882年 日本銀行設立
1885年 日本銀行券発行
1888年 5円札:菅原道真
1891年 100円札:藤原鎌足
1945年 1000円札:ヤマトタケルのミコト
1946年 1円札:二宮尊徳
1946年 「新円切り替え」実行
1948年 50銭札:板垣退助
1950年 1000円札:聖徳太子
1951年 50円札:高橋是清
1957年 5000円札:聖徳太子
1958年 1万円札:聖徳太子
1963年 1000円札:伊藤博文
1984年 1000円札:夏目漱石、5000円札:新渡戸稲造
1984年 1万円札:福沢諭吉
2000年 2000円札:紫式部
2004年 1000円札:野口英世、5000円札:樋口一葉
2024年 1000円札:北里柴三郎、5000円札:津田梅子、1万円札:渋沢栄一

※出典:「日本の歴史⑪ゆれる江戸幕府」学研まんが
「まんが前橋の歴史」前橋市 1992
上毛新聞記事 1956年4月10日
内田憲治補筆

3 群馬県の成立まで

1590年(天正10年)

徳川家康の関東入りに伴い、家臣・平岩親吉が3万3千石で厩橋城に入る。

1601年(慶長6年) 平岩親吉に代わって酒井重忠が厩橋城へ入る。

1648～1652の間

4代藩主酒井忠清の時に幕府に認可され、「厩橋」が正式に「前橋」と改称された。

1749年(寛延2年) 酒井氏と入替で姫路城から松平朝矩が前橋城へ入る。

1767年(明和4年) 利根川の浸食を受けて前橋城は破却され、藩は本拠を川越に移す。

1867年(慶応3年) 前橋城が再興され、藩主が川越城から帰城する。

江戸時代末期の上野国

前橋藩、高崎藩、安中藩、吉井藩(高崎市吉井町)、七日市藩(富岡市)、
小幡藩(甘楽町)、沼田藩、伊勢崎藩、館林藩

1968年(慶応4年) 大政奉還

上野国と武蔵国の幕府領・旗本領を管轄する板鼻県が成立する。

1969年(明治2年) 版籍奉還で諸藩の藩主は知藩事となる。

1871年7月14日(明治4年) 廃藩置県で9藩が9県となる。

1871年10月28日(明治4年)

9県と板鼻県(上野国の部分)を合わせて第一次群馬県が成立する。県庁は高崎に置く。

1872年6月15日(明治5年) 県庁が前橋(前橋城跡)へ移転する。

1873年6月15日(明治6年)

入間県(埼玉県西部)と第一次群馬県は合併し熊谷県となる。県庁は熊谷に置かれ、群馬県民にとって遠い存在となった。

1876年9月1日(明治9年) 栃木県に併合された山田郡、新田郡、邑楽郡を統合し、現在の第二次群馬県が成立し、楢取素彦(県令)が就任した。県庁は高崎に置く。

1881年2月16日(明治14年) 県庁の所在地が前橋(前橋城跡)に決定となる。

※出典:「まんが前橋の歴史」前橋市 1992

内田憲治 上野の諸藩1「厩橋から前橋へ」 荒砥史談会歴史講座 2019

4 服装

大和、奈良 女性:衣裳(きぬも) 上半身につける衣(きぬ)と下半身につける裳(も)
男性:襖(おう) 両脇の開いた上着で武官の礼服

平安 貴族女性:十二単
男性:狩衣(かりきぬ) 正式な行事は束帯(そくたい)を着用

鎌倉、室町 武士のふだん着:直垂(ひたたれ)
戦場での服装 騎馬武者:大よろい
下級武士:腹巻
武士の奥方:腰巻

元禄 着物:小袖

江戸 奥女中の式服:打掛
武士の礼服:長かみしも
武士の服装のひとつ:組織はかま
結婚した女性の着物:留袖
婚前の女性の着物:振袖

明治 学生:男女ともに袴
初めて普通に洋服を着るようになる
男性は和服も愛用

大正 もんぺ

昭和 41 年 膝上 10cm ミニスカートの登場

生活における着物の格(着る機会に応じて格のようなもの)

- ・もんつき……ご祝儀や葬式のときなどに着る。上等な絹物でつくった。
- ・おきやくぎもん……お客に行くときに着る着物で、銘仙でつくった。
- ・ちょいちょいぎ……お祭りや買い物など、ちょっとした外出のときに着る。銘仙程度のきぬものや木綿(ガス織り)でつくった。
- ・ふだんぎ……ふだん家にいる時に着る着物で、「つねつき」とも言う。
- ・のらぎ……木綿でつくり農作業などの仕事をする時に着るもの。材料から作る場合とふだんぎのお古を転用する場合がある。

※出典:前橋市「まんが前橋の歴史」平成 4 年 5 月 10 日発行
学研まんが「日本の歴史⑬日清・日露の戦い」裏見返し
木瀬村誌編集委員会「木瀬村誌」平成 7 年 9 月 20 日発行

5 食べ物

旧石器時代 - 大型動物を狩猟

日本列島は亜寒帯性の気候で広葉樹は殆ど繁茂しておらず木の実の採集は行われなかった。約2万年前の花泉遺跡(岩手県関市)から、野牛・オオツノジカ・ヘラジカ・ナツメジカ・ナウマンゾウ・ノウサギなどの骨が大量にまとまって発見された。それにより主として哺乳類のやや大型動物を狩猟し食料としていたことが実証された。調理方法は、礫群(石を円形に敷詰め)の上で木々を燃やし、石が焼けたら獣肉を載せ焼いて食べた。

縄文時代 - 狩猟や採集や漁猟

土器が発明された。気候の温暖化に伴い、ブナ・ナラ・クリ・クルミ・カシ・シイ・クスノキなどの照葉樹林が繁茂し木の実の採集が行われた。それによりニホンジカ・イノシシ・カモシカ・エゾヒグマ・ツキノワグマ・タヌキ・アナグマが増え、「陥し穴」や弓矢により捕獲し焼き、または土器で煮て食べた。北海道から東日本地域は、川を遡上するサケ漁により豊富な食糧が得られ西日本に比べ人口が増加していた。晩期には九州の遺跡から「水田跡」が検出されイネの栽培が実証されている。なお、当時の縄文人の寿命はおよそ30歳位と考察されている。

弥生時代 - 五穀(コメ・ムギ・アワ・マメ・キビ)の栽培

稲は2,600年前頃に大陸から北九州へ伝来した。水田稲作は北九州から西日本へそして急速に近畿地方まで伝わり、やがて本州最北端まで伝わり、さらに鉄製の農工具が普及し現在の農業の原形が開始された。コメ・コムギ・アズキ・ダイズ・ヒエ・アワ・エゴマ・シソ・ヒョウタン・モモ・ウリ・トウガンなどが栽培された。イノシシ・シカなどの狩猟も行い、コイ・フナ・ナマズ・ドジョウ・タニシなど淡水での漁労が行われた。

古墳時代 - 日本食の原形が出現する

農耕が次第に普及しコメ・アワが主食となり、獣肉・魚・海藻・野菜・山菜を副食にする日本食の原形がほぼ見えてきた。主食はコメ・アワの強飯(蒸し米)、魚の塩焼、干物、ワカメなど海藻の汁、ダイコン・カブラ・フキ・サトイモ・ノビルの塩漬け、木の実はモモ・カキ・ウメ・スモモなどである。

675年4月17日、天武天皇は「殺生禁止令」で「牛・馬・犬・猿・鳥の肉を食べてはならぬ」という詔を発した。6世紀に我が国へ伝来した仏教の影響と考察される。

奈良時代 - 日本食の基本形式が出現する

天平宝字6年(762)の正倉院文書や『延喜式』を元に復元すると、蒸したコメ、汁物には海藻が使われ、ダイズ・アズキ・ゴマ油、漬菜に塩、醬(ひしお一味噌・醤油の原形)、酢といった調味料が使われていた。この時代は朝6時と午後2時の1日2食だった。

平安時代 - 日本食はほぼ成立した

コメを常食として食べられたのは貴族など上流階級のみで、庶民はコメにムギ・アワ・キビ・ヒエなどで量を増して粥(かゆ)などにして食べていた。この時代も奈良時代と同様に朝6時と午後2時の1日2食だった。古墳時代の「殺生禁止令」により動物は食べられなくなり、牛は田畑を耕す農

耕用に使われるようになった。貴人を載せた牛車(ぎっしゃ)を引くためにも用いられ、馬は武士が乗用として使うようになった。

鎌倉時代 — うるち米の栽培

玄米を主食としておかずに魚や根菜の煮物が食べられていた。魚など余った場合は干物にしていた。戦場に赴く際「おにぎり・梅干し」の組み合わせは携帯食として便利で武士の発案という。末期には粳米(うるちまい)が栽培され、釜で炊いた姫米(ひめまい)が食べられ、現在同様にご飯が食べられるようになった。

室町時代 — 醤油の発明

1日2食であったが稀に3食することもあった。伝統を重んずる貴族は相変わらず糯米(もちごめ)を蒸す強飯(こわめし)を食べ、武士や庶民は釜で姫飯(ひめまい)を炊いていた。しかし庶民や農民は米・麦ご飯で焼き魚や漬け物で食べ、「醤油」が発明され味噌汁などに使われた。主食はコメ・ヒエ・アワ・キビで、ほかに芋類や魚や漬け物であった。

食事は朝8時と午後2時の2食で、戦時の武士は1日5合ぐらい食べていたという。平時は野菜などを入れた雑炊も食べ最後に汁をかけて食べていた。出陣し戦場で喉が渴いた際は梅干しを見て喉の渴きを凌いでいたという。

江戸時代 — 1日3食が定着する

朝はホカホカご飯に味噌汁、昼は冷や飯に魚や野菜、夜はお茶漬けに漬物が多かった。長屋住まいの町民でもよほど貧しくないかぎり白米を食べていた。江戸っ子は白米を食べることが誇りであったが、副食が乏しいので栄養不足になりがちだった。

米は精米にするとビタミンB₁を含む糠(ぬか)が落ち、脚気やしびれ・筋肉痛・心臓肥大・神経症になる。当時は原因が分からず“奇病”として「江戸わずらい」と呼ばれていた。徳川幕府の10代将軍の家治、13代将軍・家定、14代将軍・家茂は脚気を患いそれが原因で死亡したと伝えられている。

明治時代 — 外国の食材が様々に輸入される

日本列島は南北に長く連なり気候の差異は大きい、開国以降はそれに順応する各地に世界からの野菜を受け入れ栽培が可能になった。都が京都から東京へ遷されると天皇も江戸城を皇居として住まい、外国人の姿を見る機会が多くなり日本人との体格差に仰天した。675年の天武天皇による「動物殺生禁止令」以来、肉食をしなかったのがその要因なのではないか、と感じ自ら肉食していることを公表した。その情報に日本中の国民は大いに驚いたという。以来、1200年ぶりに肉食解禁となり次第に洋食が国内に広まり国民に浸透していった。

大正時代 — 第一次世界大戦により不況になる

主食は依然として米であるが価格が高騰し十分な量の米が食べられなくなった。そのため芋・麦・雑穀などを混ぜて「雑炊」が食卓に並ぶようになった。魚介類は重要なタンパク源として利用され、塩干し・干物・魚の缶詰などに利用され、魚が主役になる料理が増えた。

昭和時代 － 戦後の欧米化が普及

戦後は日本人の食生活を大きく変えた時代で、急速に食の欧米化や米離れなどが加速しパンや肉類の消費が増加した。昭和 30 年代には家電製品が発展し冷凍冷蔵庫が登場し、カップラーメン(昭和 33 年発売)などインスタント食品や調味料などが続々と発売されるようになった。昭和 40 年代には家庭用電子レンジが発売され、また外食企業が日本に上陸しファミリーレストランやファーストフード店やスーパーマーケットも開業した。昭和 50 年代以降はコンビニエンスストアが台頭し、食卓を囲む自炊の食事から出来合いの食品の購入や外食が多くなった。

※出典：内田憲治「日本人は何を食べて来たのか」荒砥史談会 秋季学習会 歴史講座 2020

6 明かり(照明)

大昔の人々 焚き火

たいまつ(松の油を利用)

ろうそく(より糸を真にしてそのまわりをろうで固めた)

ちょうちん(かごの中にろうそくを立てた)

あんどん

江戸末期 石油ランプ

1872年(明治5年) ガス燈

1878年(明治11年) アーク燈

1884年(明治17年) 白熱燈<上野駅>

蛍光灯

1920年(大正9年) 電灯 <下大島町各家庭大休1軒1灯>

電気の記念日 4月25日

※出典:「まんが前橋の歴史」前橋市 1992

「日本の歴史⑧天下の統一」学研まんが

7 子どもの遊び

平安 竹馬遊び、すずめとり、毬杖(ぎっちょう)、石合戦、雪合戦
かくれんぼ、木登り、たこあげ

室町 雪合戦、かくれんぼ、木登り、たこあげ

江戸 独楽まわし、折り紙、あやとり、ねずみ花火、シャボン玉、鬼ごっこ、
天神様の細道(とおoryんせ)

明治以降

ビー玉、めんこ、三輪車、兵隊ごっこ、セルロイドの人形、野球、
ローラースケート
カルタ、福笑い、縄跳び、お玉、きしゃご、双六、雪だるま作り、ままごと、

昭和初期 はじめの一步(だるまさんが転んだ)
テレビ、漫画

平成以後 野球、缶蹴り、サッカー、テレビゲーム、パソコン

※出典:「目で見える群馬の100年」 煥乎堂 1982
「日本の歴史⑮戦争への道」 学研まんが

8 数え歌とわらべ歌

数え歌

一番はじめは一の宮
二また日光中禅寺
三また佐倉の宗五郎
四また信濃の善光寺
五つは出雲の大社(おおやしろ)
六つ村々鎮守様
七つは成田の不動様
八つ八幡の八幡宮
九つ高野の弘法さん
十で東京心願寺

数え歌

一 いちじく
二 にんじん
三 さんしょう
四 しいたけ
五 ごぼう
六 むくろじ
七 ななくさ
八 はつたけ
九 きゅうり
十 とうがん

通りゃんせ

通りゃんせ 通りゃんせ
ここはどこ細道じゃ
天神さまの細道じゃ
ちょっと通して下しゃんせ
ご用のないもの通しゃせぬ
この子の七つのお祝いに
お札を納めに参ります
行きはよいよい 帰りはこわい
こわいながらも 通りゃんせ
通りゃんせ

かごめかごめ

かごめかごめ
かごの中の鳥は
いついつ出やる
夜明けの晩に
鶴と亀が滑った
後ろの正面だあれ

にらめっこ

だるまん
だるまん
にらめっこしましょ
笑うと負けよ
あっぷっぷ

ずいずいずっころばし

ずいずいずっころばし
ごまみぞずい
茶壺に追われて
とっぴんしゃん
抜けたらどんどこしよ
俵のねずみが米食ってちゅう
おっ父さんが呼んでも
おっ母さんが呼んでも
行きっこなしよ
井戸のまわりで
お茶碗欠いたのだあれ

花いちもんめ

勝ってうれしい 花いちもんめ
負けてくやしい 花いちもんめ
となりのおばさんちょっと来ておくれ
鬼がいるから行かれない
お釜かぶってちょっと来ておくれ
釜がないから行かれない
布団かぶってちょっと来ておくれ
布団破れて行かれない
あの子がほしい あの子じゃわからん
この子がほしい この子じゃわからん
相談しよう そうしよう

※出典:内田憲治「わらべ歌と唱歌と童謡の歴史」荒砥史談会 2021

9 大人の娯楽

平安 蹴鞠(けまり)

江戸 暮らしが楽になり、芝居や相撲見物、浮世絵、歌舞伎等
寺社参り、お花見

1948年 プロ野球 ナイターは昭和23年8月17日、巨人対中日戦が現在の横浜球場で初めて行われ、3対2で中日が勝利した。

1951年 NHKで紅白歌合戦が始まる。

1955年 前橋敷島球場が開設された。

1966年 群馬県民マラソンが開催された。

1971年 群馬テレビ本放送が開始した。

1983年 第38回国民体育会開催県「あかぎ国体」が開催された。

開催中「まえばしの水」を缶詰に売り出した。

(大会に因んだ記念水の販売は前橋が一番に始めた)

1990年 グリーンドーム前橋が完成した(コンペションセンター)。

2000年 シドニー五輪、女子マラソンで高橋尚子が世界記録で金メダルを獲得した。

・スケート 1927年に日本スピード競技連盟が発足した。1930年にフィギアスケートの全国大会が開催された。

・スキー 1879年にジャンプ競技が開始された。

・カラオケ 1960年代後期にスナックに置かれたカセットテーププレーヤーから始まり、1970年初頭頃に専用ソフトによりブームとなる。

・ドライブ 1959年 県下で自動車ブーム →1964年頃、自動車教習所新設盛ん

他にも

映画、釣り、山登り、花見大会見物等

※出典:「目で見ると群馬の100年」 煥乎堂 1982

10 移動手段

1919年 渋川ー中之条間 乗合車

○オートバイの普及は自転車より遅れた

1933年(昭和8年) オートバイ急増

1935年には前橋市内 1163 台に

1948年 前橋-草津間に駅車鉄道開通

1958年 自動車を米国から初輸入

1966年 前橋-渋川間に乗合馬車

1964年 新幹線(東京オリンピック直前に東海道新幹線が開通)

◎現代の移動手段

自転車、自動車、バイク、バス、タクシー、電車、新幹線、飛行機、船等

※出典:「まんが前橋の歴史」前橋市 1992

11 方言

※今井町発行「荒砥川第 129 号増刊号(平成 25 年 9 月 15 日)今井町生涯学習推進委員会編集」より引用

・～だいね (～ですね)
・あいさっこ (あいだ)
・足のへった (足の裏)
・あちーなー (暑いね)
・あぶせえ (危ない)
・あんじゃねー
 (何もない・大丈夫・間違いない)
・いいのう (いいですね)
・いくべー (行こう)
・いっぺえ (いっぱい)
・うっちゃる (捨てる)
・うっすらうっすら歩く (想いのまま歩く)
・うってつけ (適している)
・うどんをぶつ (うどんをうつ)
・うねつきり (思いつきり)
・うんと採った (いっぱい採った)
・うんまける (空にする)
・うんまける程採れた (いっぱい採れた)
・うんめえ (おいしい)
・おおかとれねー (たくさん採れねー)
・おっかける (壊れる)
・おっかちゃん (お母さん)
・おっかねー (こわい)
・おっことす (落とす)
・おっつけ・おつけ (お汁)
・おっとちゃん (お父さん)
・おっばじめる (始める)
・おっばなす (放す)
・おっぺす (押すこと)
・おめえー (お前)
・かいい (かゆい)
・かえるがきゅたばった (カエルが死んだ)
・かしよう (さそう)
・かれーな (辛い)
・かんます (かき混ぜる)

・きいてんべ (聞いてみる)
・きない・きねえ (こない)
・くたばれ (死んでしまえ)
・くたびれた (疲れた)
・くっちゃべる (しゃべる)
・くんずかや (くれますか)
・くんねかい (戴けませんか)
・けーれや (帰りなさい)
・けっちらかす (散らかす)
・けつつまずく (つまずく)
・けつとばす (ける)
・けなりー (羨ましい)
・こっばずかしい (少し恥ずかしい)
・こっぴどい (ひどい)
・こにくらし
 (可愛げない・憎たらしくてしゃくにさわる)
・これちんべ (ほんの少し)
・こんだけ (これだけ)
・ごんぼう (ごぼう)
・さんざんだよ (大変だ・見苦しい・ひどくみじめ)
・しゃがむ (腰を下ろす)
・しょっぺいなー (塩辛い)
・せんころ (先日)
・そうきや (そうですか)
・そうじゃあんめい (そうだったんですか)
・そうすべ (そうします)
・そうだむし (そうですね)
・そうだんべ (そうだったんですよえ)
・そうなん (そうなの)
・そんじゃあ (それでは)
・たんと (たくさん)
・～をくんない (～を下さい)
・～をやんべー (～をやろう)
・チッカキュー (じゃんけんポン)
・ちっちい (小さい)

- ・ちっとも (少しも)
- ・ちっとんばい (こんなに少し・ほんの僅か)
- ・つぐ朝 (次の朝)
- ・つくむ (しゃがむ)
- ・つつつす (突き刺す)
- ・つんのめる (滑る・前へ突き倒れる)
- ・ていら・てえら (平)
- ・でーく (大工)
- ・でーこん (大根)
- ・でっけえー (大きい)
- ・てめー (おまえ)
- ・でんげる (転ぶ)
- ・てんで良かった (素晴らしかった)
- ・どぎつい (飾りがきつい)
- ・とくせい (裕福)
- ・とっつかまえる (捕まえる)
- ・とろい (遅れている)
- ・なから取れた (充分取れた)
- ・なんちゆう事だ (なんという事だ)
- ・にしらー (お前たち)
- ・ねんじん (にんじん)
- ・のして歩く (勢いよく歩く)
- ・は一けるきゃー (もう帰るんですか)
- ・はがむ (恥ずかしがる)
- ・はととばす (殴る)
- ・ひずりい (まぶしい)
- ・ぶちやけた話 (正直な話)
- ・ぶちやちゃえ (捨てる)
- ・ぶっかける (<ご飯に>汁をかける)
- ・ぶったまげる (すごく驚く)

- ・ぶっ飛ばしていく (速く行く)
- ・ぶととばす (殴る)
- ・ふんじゃー (それでは)
- ・ふんずかまえる (捕まえる)
- ・ふんずける (踏み潰す)
- ・ふんだくる (奪う)
- ・ぶんまける (あけて空にする)
- ・へえる (入る)
- ・へんねーきゃ (入りませんか)
- ・ほつつき歩く (あちこち歩く)
- ・ほっとけ (干渉するな)
- ・ほんときゃ (ほんとうだ)
- ・まっと (もっと)
- ・まんま (ごはん)
- ・むかつく (腹が立つ)
- ・めえかった (前)
- ・めえん家 (前の家)
- ・飯くんべえ (ご飯食べよう)
- ・めっかんねー (見つからない)
- ・めつけて (見つけて)
- ・めんめ (うどん)
- ・やかましい (うるさい)
- ・やだんべー (やだ・嫌だ)
- ・やっけーだ (厄介だ)
- ・やってんべー (やります)
- ・やべー (まずい・危険だ)
- ・やんなくちゃー (しなくては)
- ・ゆっくりすべー (ゆっくりしましょう)
- ・よかんべ (いいよ)
- ・よすべー (よします・止める)

※今井町発行「荒砥川第 38 号増刊号(平成 29 年 9 月 1 日)今井町生涯学習推進委員会編集」より引用

- ・あがりはな (土間から床の上がり口)
- ・いかげや
(鍋・釜などの傷んだ部分を半田で修理する人)
- ・おこさま (蚕)
- ・おととばす (追いかける)
- ・おてんたら (こびる)

- ・おとうか (キツネ)
- ・おとこし (男子)
- ・おにむし (くわがた)
- ・おんなし (女子)
- ・とつぽい (生意気だ)
- ・くいつくら (食べ比べ)

- ・くわけ (桑の木)
- ・こうや (来てくれ)
- ・めけいご (ものもらい)
- ・しまつ (けち)
- ・せど (裏)
- ・てんびんぼう (物のかつぐ棒)
- ・なす (返す)
- ・ひとつきり (一時期)
- ・せっちよ (せわをやく)
- ・ここんとこ (この場所)
- ・ずっこける (失敗する)
- ・ずるったい (締まりがない)
- ・せんぜる (神様に供する)
- ・たまげた (驚いた)

- ・おっこぼす (こぼす)
- ・ちゃち (貧弱)
- ・どつくむ (飲み込む)
- ・とっちめる (懲らしめる)
- ・とまくち (近くの入り口)
- ・はな (はじめから)
- ・ぶつきらぼう (あいそがない)
- ・ふんごさる (ぬかるみにはまる)
- ・ふんとに (本当に)
- ・ぼっこす (壊す)
- ・もちやづけ (扱いづらい)
- ・よじける (よろける)
- ・わざと (故意に)

※荒砥第二尋常小学校 郷土史調査研究部会「郷土誌荒砥村 上下(昭和14年12月5日発行)」より引用 編纂者: 梶木秀雄・佐竹杲皓、発行者: 中澤佑吾、印刷者: 佐竹杲皓(ひらがなであいうえお順に並び変え)

【あ行】

- ・あー (はい)
- ・あか (赤ん坊)
- ・あかし (燈火)
- ・あかんべ (いやです)
- ・あがんなんしょ (お食べなさい)
- ・あく (灰)
- ・あぐ (あご)
- ・あくてー (悪口)
- ・あくと (腫)
- ・あさつぱら (早朝)
- ・あしこ (足跡)
- ・あすび (遊び)
- ・あせー (浅い)
- ・あちー (暑い)
- ・あつけねー (物足りない)
- ・あつたらもの (惜しい)
- ・あっち (あちら)
- ・あてこともない (途方もない)
- ・あてずっぽ (でたらめ)
- ・あなっこ (穴)

- ・あのしと (あの人)
- ・あのでー (あの人たち)
- ・あばよ (さようなら)
- ・あぶい (危ない)
- ・あぶく (泡)
- ・あま (女)
- ・あまっちょ (いやしい女)
- ・あめー (甘い)
- ・あら (欠点)
- ・あらかた (あらまし)
- ・ありやこりや (あべこべ)
- ・あんこ (餠)
- ・あんじゃねー (心配はない)
- ・あんた (あなた)
- ・あんちゃん (兄)
- ・あんぶく (泡)
- ・あんべい (ありませう)
- ・あんべいわりい (きもちのわるい)
- ・あんめーや (無いでせう)
- ・あんも (餅)
- ・あんやん (兄)

・あんよ (歩く足)
・いーだにー (よいのだ)
・いっつけ (よいさうだ)
・いかなくつちや (行かなくては)
・いかねえ (ゆかない)
・いきばる (えらぶる)
・いきやがれ (行け)
・いきれる (蒸暑い)
・いくべー (行きましょう)
・いくべやー (行こう)
・いくん? (行くのですか)
・いける (埋める)
・いごく (動く)
・いしっころ (石)
・いじる (触れる)
・いすくばり (内気者)
・いたっぺら (板)
・いたん (みた)
・いっかる (乗る)
・いっける (載せる)
・いっこう (全然)
・いっちやった (行ってしまつた)
・いっつりきっつり (行ったり来たり)
・いってんべや (行って見様)
・いっぺい (沢山)
・いぬかに (大麦)
・いぬっころ (犬の子)
・いばる (怒る)
・いび (指)
・いびー (けむい)
・いびつ (不正円形)
・いぶせー (危ない)
・いめへましい (残念)
・いやしんぼう (いやしい人)
・いらあ (居ます)
・いるり (ゐろり)
・いんごう (頑固)
・いんぬした (床下)
・いんねー (いらない)
・うっかりして (油断して)

・うっちやる (捨てる)
・うったまげる (吃驚したこと)
・うなりつける (脅すこと)
・うぬ (女)
・うんち (小児の大便)
・うんまい (上手な)
・えーあんべー (良い具合)
・えかい (大きい)
・えすかに (大麦)
・えぶせい (危ない)
・えんたつ (煙突)
・えんだら (不規律)
・おあし (ぜに)
・おーかん (道路)
・おかまけなんしよい (お稼ぎなさい)
・おき (火)
・おこさま (蚕)
・おこわ (赤飯)
・おこる (怒る)
・おこんじょう (意地悪き人)
・おさご (神様にあげる米)
・おさまへる (捕ふ)
・おさる (教はる)
・おさんから (虚偽のこと)
・おしー (みそしる)
・おしーこ (小児の小便)
・おしっくら (押しくらべ)
・おしめ (おむつ)
・おしめり (降雨)
・おじゃん (中止)
・おじゃん (おじさん)
・おせろ (教へろ)
・おたまんげーろ (おたまじゃくし)
・おっかあ (母)
・おっかく (折る)
・おっかちゃん (母)
・おっかねー (おそろしい)
・おつくぢる (折る)
・おつけ (お汁)
・おっこった (おちる)

- おっそろしく (非常に)
- おったまげる (驚く)
- おっち (唾)
- おっちぢめた (おしつけた)
- おっちやれる (叱られる)
- おっちゃん (おじさん)
- おっちよる (おる)
- おっつけ (やがて)
- おっばした (行ってしまった)
- おっぺしよる (折る)
- おっころがる (転がる)
- おっびたす (浸す)
- おっぺなす (貶すこと)
- おてんたら (虚偽の世辞)
- おてんとさま (太陽)
- おと一か (狐)
- おどされる (叱られる)
- おとつつあん (父)
- おとて (一昨日)
- おとてい (一昨日)
- おなべ (夜業)
- おはいんなんしょ (お這入りなさい)
- おぼんし (炊事婦)
- おひやらかす (嘲弄)
- おぶー (湯)
- おべんちゃら (虚偽の世辞)
- おほきに (甚だしく)
- おまんま (飯)
- おめー (あなた)
- おもたい (重い)
- おめーのせーだ (君の責任だ)
- おやげない (可哀想)
- おらー (私)
- おらげー (私)
- 【か行】
- かあら (瓦)
- がいろ (蛙)
- かかあ (妻)
- がき (子供)
- かくねっこ (かくれんぼ)

- かくらん (日射病)
- かけつくら (駄足) かけくらべの転
- かげん (病気)
- かじかむ (こごえる)
- かじける (こごえる)
- かしょう (誘ふ)
- かせいで (急いで)
- かたっぺら (片面)
- かったぼ (片端)
- がちゃがちゃ (くつわむし)
- かっくらせる (人をうつ)
- かっけす (消す)
- かっこ (下駄)
- かったるい (だるい)
- かっぶく (体格)
- かてー (かたい)
- かっばく (ほる)
- かっぺなす (非難する)
- がな (ではないか)
- かなーねー (かなわない)
- がなる (怒鳴る)
- かなかな (日ぐらし)
- かなへび (蜥蜴)
- がに (カニ)
- かばら (桑畑)
- がぼん (かぼん)
- かまぎっちょ (かまきり)
- かみごーか (住宅内の便所)
- からつきり (まるで)
- からっけつ (空・無一文)
- からっぼ (から)
- がらり (遂に・過失で・すっかり)
- かんから (あきかん)
- かんく (巡查)
- かんこ (下駄)
- がんしょ (ございましょう)
- がんじょう (堅固)
- がんす (ございます)
- かんなめる (なめる)
- かんばん (しるしばんてん)

•かんべん (ごめん)
•かんます (かきまわす)
•きーくつ (窮屈)
•きかんぼう (生意気)
•きけねー (聞こえない)
•きざ (気ざはり)
•きさっせ (来なさい)
•きさんじ (面白い)
•ぎしゃく (磁石)
•きじり (薪置場)
•きたねーやつ (貧欲者)
•ぎっちよ (ばった)
•きつと (確かに)
•きっぱち (きりはし)
•きぬー (昨日)
•きびしょ (急須)
•きびわるい (何となく恐ろしい)
•きまんね (きまらない)
•きもん (着物)
•きやーど (門口)
•きりばん (まないた)
•きれえ (嫌い)
•きんによう (昨日)
•ぐいら (無理に)
•くさる (ぬれる)
•ぐし (むなぎ)
•くしゃみ (くさめ)
•くせい (臭い)
•くせる (叱る)
•くたばった (死にました)
•くたばり (ばかばかしい)
•くたばれ (死んでしまへ)
•くちべろ (唇)
•くっかく (欠く)
•くつつける (たきつける)
•くど (かまど)
•くどい (むずかしい・しつこい)
•くね (かきね)
•くびっかかり (首くくりの死者)
•くひてえ (たべたい)

•くべー (来るだらう)
•くべる (薪を火に投ずる)
•くらせる (なぐこと)
•ぐれる (間違える・非行化する)
•くらー (来る)
•ぐるり (周囲)
•ぐれい (位)
•くれー (下さい)
•くんな (下さい)
•くんな (来るな)
•くんなんしょ (下さい)
•くんべー (食べましょう)
•くんろ (下さい)
•くんろや (下さい)
•けーど (門口)
•けーば (飼料)
•げいろ (蛙)
•げいろっぱ (おほぼこ)
•げえー (家・母屋に付けた下屋)
•げーに (強く)
•けえるべーや (帰りませう)
•けしかける (そそのかす)
•けだい (蓑・雨具)
•けちくさい奴 (吝嗇)
•けちつける (非難する)
•けつ (尻)
•けつかる (居る)
•けつとばす (蹴り飛ばす)
•けとげ (鶏頭毛)
•けなるがる (羨ましがる)
•けみい (けむい)
•けも (けれども)
•こう (来なさい)
•こうかんぼ (ねむの木)
•こうや (来な、おいで)
•こうこ (香の物)
•こーやー (来ないか)
•こかす (言ふ)
•こきたない (きたない)
•こきのめす (叱りつける)

- こく (言ふ)
- こけ (馬鹿)
- こごむ (しゃがむ)
- こさいる (作る)
- ござった (腐敗した)
- こじゃうはん (中間の食事)
- こすい (ずるい)
- ごぜん (ご飯)
- こちとら (私)
- ごちゃごちゃ (沢山できちんとしない)
- こづく (打つこと)
- こづけえ (小遣い)
- ごてごて (沢山)
- ごてっばら (沢山)
- こないだ (此の間)
- こなす (悪口を言ふ)
- こねいか (来ないか)
- こぼす (嘆息する)
- こゆみ (暦)
- これちんべ (こればかり)
- これっちんべ (このくらい)
- これんべー (こればかり)
- ころごろさま (雷)
- こんもり (洋傘)

【さ行】

- さ (の方へ)
- さあつき (前に)
- ざある (ざる)
- さいなら (さようなら)
- さうかや (左様ですか)
- さうけ (そうですか)
- さうだがん (左様であります)
- さうだんべー (左様だから)
- さうでやんす (左様です)
- さがねる (探す)
- さっき (先ほど)
- さぶろ (しゃべる)
- ざま (負簞)
- さまじい (ごうきな)
- ざまみろ (よい気味だ)

- さみー (さむい)
- さむしい (淋しい)
- さらけだす (みんな出す)
- さるっこ (袖無半天)
- さんざ (充分、沢山)
- さんざっばら (散々)
- しあねー (しかたがない)
- しあれ (退け)
- しいこ (小便)
- じくなし (意気地なし)
- しこーどる (気取る)
- しこし (すこし)
- しこたま (沢山)
- しじめ (蜆)
- しっかり (沢山)
- しったくる (奪ふ)
- しっちげる (捻挫する)
- しっちねる (つねる)
- しっちょう (背負う)
- しってら (知っている)
- しっぽ (尾)
- しづらい (しにくい)
- してもの (軍医物)
- しところ (懐)
- しべい (しませう)
- しみったれ (物惜しみをする)
- しぶつかき (吝嗇家)
- しめし (おむつ)
- しゃいなし (余計なこと)
- しゃがむ (屈むこと)
- しゃくご (ものさし)
- じゃくろ (ざくろ)
- しゃじ (匙)
- しゃじける (ふざける)
- しゃつつら (顔)
- しゃつぽ (ぼうし)
- じゃらかす (意地をやかす)
- しゃらくさい (なまいき)
- じゃんぼん (葬式)
- しよ (塩)

- ・じょうきん (雑巾)
- ・じょうご (栓)
- ・しょうたれ (すっかりぬれる)
- ・じょーり (草履)
- ・しょっちゅう (常に)
- ・しょっぱい (しほからい)
- ・しょっぺーなし (余計なこと)
- ・しょてっぺん (最初)
- ・しょはせる (負はせる)
- ・しょんべん (小便)
- ・しらじ (すりばち)
- ・しらねー (人の事・知らない)
- ・しらばくれる (知らないふりをする)
- ・しんしょう (身代・財産)
- ・じんじき (人力車)
- ・しんねー (知らない)
- ・しんぺい (心配)
- ・すーとめ (田植女)
- ・すぐち (近路)
- ・ずでー (意外に)
- ・ずぶ (大麦)
- ・すべた野郎 (馬鹿野郎)
- ・ずり (鋸)
- ・せーり (芹)
- ・せいふろ
(据風呂・風呂桶の下部にカマドを据え付けた風呂)
- ・ぜいもく (材木)
- ・せがむ (強請・ねだる)
- ・せど (家の裏)
- ・せなご (兄)
- ・ぜね (銭)
- ・せびる (強請)
- ・せんだって (せんころ)
- ・せっかち (気短な)
- ・せっちょう (厄介なこと)
- ・せつない (貧しい)
- ・せんに (せんころ)
- ・そうかや (そうですか)
- ・そーけ (そうですか)
- ・そーじゃねー (ちがいます)

- ・そーだかい (そうかな)
- ・そーだっけや (左様だということだ)
- ・そーだむし (さようですね)
- ・そーだんべー (そうだろう)
- ・そすんなよ (そうするな)
- ・そそ (すそ)
- ・そだから (それだから)
- ・そっけった (おどろいた)
- ・そっける (そりかへる)
- ・そべーる (ふざける)
- ・そらっぺ (うそ)
- ・そんだー (それでは)
- ・そんだって (だって)
- ・そんだら (それなら)
- ・そんでのー (そして)
- ・そんぶり (素振り・気配・顔色)

【た行】

- ・たかじゃつぽ (中折)
- ・たかんぼ (竹筒)
- ・たけい (たかい)
- ・たける (物を付着せしめる)
- ・たこと (たわごと・冗談)
- ・だっこ (抱く)
- ・たっち (立つ)
- ・たぼこ (煙草)
- ・たまがす (驚かす)
- ・たまげた (驚いた)
- ・たむと (たもと)
- ・ためっこ (溜)
- ・たらつ (馬鹿者)
- ・たらふく (いっぱい)
- ・たれる (大小便をすること)
- ・だるま (娼婦)
- ・たんと (沢山)
- ・たんない (足りない)
- ・だんべー (だらう)
- ・ちけい (近い)
- ・ちこんき (蓄音器)
- ・ちつきに (ただちに)
- ・ちっちゃい (小さい)

・ちっと (すこし)
・ちつとも (すこしも)
・ちつとんべ (すこしばかり)
・ちっぼけ (小さい)
・ちっぼけな (小さい)
・ちび (小さい)
・ちべた (地面)
・ちみたい (つめたい)
・ちみてい (つめたい)
・ちゃかす (馬鹿にする)
・ちゃぞっぺ (茶菓子)
・ちゃっぼ (帽子)
・ちゃぶだい (卓)
・ちゃんちゃらおかしい (馬鹿らしい)
・ちゃんちゃんこ (そでなし)
・ちゃんと (きちんと)
・ちょうちょうばこ (蝶々)
・ちょき (落ち着かぬ事)
・ちょちよら (落付かぬ)
・ちょつきら (ちよつと)
・ちゃん (父)
・ちくらっぺ (嘘偽)
・ちょーづば (便所)
・ちょつくら (一寸)
・ちょつぱし (俵の両端にある円い棧俵)
・ちょろまかす (ごまかす)
・ちんけ (小児のこと)
・ちんこい (小さい)
・づうたい (体)
・つえー (強い)
・つえんぼー (つえ)
・つつきる (横切る)
・つっけいぼう (支べ棒)
・つっぱる (はる)
・つつぼう (筒袖)
・づない (大きい)
・つのっぼい (尖る)
・つばくら (つばめ)
・づぼら (しまりが無い)
・つぼる (切る)

・つまんねい (つまらない)
・つめる (戸締等をする)
・つら (顔)
・つらぬき (納税のこと)
・つよ (露)
・つんだす (だす)
・つんぬげる (逃げる)
・つんのめる (前に倒れる)
・つんもす (もやす)
・であーこ (大根)
・ていげい (おおよそ・大まか)
・でいじ (大切)
・でいどころ (台所)
・ていら (平)
・で一 (感動を表はす)
・で一 (です)
・でかい (大きい)
・でかす (つくる)
・できもん (はれもの)
・てしよ (皿)
・でっかい (大きい)
・てづま (手品)
・てねげー (手拭)
・てねごい (手拭)
・てふてふばこ (蝶)
・でほ (でたらめ、偽り)
・てめい (お前)
・でれすけ (ばか)
・でんぐりけーる (ころぶ)
・でんぐるけす (たおす)
・てんこもり (沢山にもる)
・てんしゃば (停車場)
・てんで (初めから)
・てんでんに (めいめいに)
・でんな (出るな)
・でんぼ (偽り)
・てんぼ (腕のない人)
・とうさんばっこ (通さぬこと)
・どうずく (打つこと・威すこと)
・どけ (退け)

- どちべた (地面)
- とつくに (先きに)
- とつけーる (とりかへる)
- とっちめる (責める)
- とてつもない (とほうもない)
- どどめ (桑の実)
- とぼぐち (戸口)
- とまる (果実の熟すること)
- どやす (叱る)
- どろ (判らず)
- とろける (溶ける)
- とろっぴょーし (度度)
- とろっぺー (度度)
- とんがらし (唐がらし)
- とんでく (飛んで行く)
- とんび (鳶)
- とんま (愚者)

【な行】

- ないご (いなご)
- なかんべ (無いだろう)
- なくちゃんね (なければならぬ)
- なぜる (撫でる)
- なた (巡查)
- ななくさ (七種の菜)
- なまくら (なまけもの)
- なめい (名前)
- なりんぼー (らい病患者)
- なるべー (なりましょう)
- なるんだんべー (なるよね)
- なんご (お手玉)
- なんしょ (なさい)
- なんだそんだ (なんだといふのだ)
- なんだって (なぜ・なあに)
- なんだんべー (何でせう)
- なんちゅうことだ (何と言ふことだ)
- なんちゅうことね (そうさない)
- なんでえ (何で・何だって)
- にぎにぎ (握り飯)
- にけい (二階)
- にげえ (苦い)

- にゃあご (猫)
- にし (お前)
- ぬかす (言ふ)
- ぬかりったま (ぬかるみ)
- ぬくてい (暖かい)
- ぬし (お前)
- ぬすつと (盗人)
- ねーま (苗代田)
- ねっこ (根)
- ねんじん (人参)
- ねんね (嬰兒・寝ている)
- のこずり (のこぎり)
- のつける (のせる)
- のっぺり (なめらか)
- ののこ (綿入)
- のま (沼)
- のめっこい (なめらか)
- のめる (すべる)
- のらぼう (乞食)
- のろま (おそい)
- のんだくれ (よっぱらい)
- のんのんさま (一人前に見える人)
- のんべー (好酒家)

【は行】

- はあ (もう)
- は一くござい (早くおいでなさい)
- はえい (早い)
- はかせる (他人をだます)
- ばかんする (馬鹿にする)
- はぎる (はさみきる)
- はぐ (奇数)
- はぐ (揃わないこと)
- はぐる (めくる)
- はくしょん (くしゃみ)
- はぐれる (迷う)
- はげつちよ (はげ)
- はごき (はぎき)
- はじっこ (はじ)
- はしゃぐ (乾く)
- はしゃぐ (浮かれる)

•はたく (たたく)
•はたる (督促する)
•はちっぴらき (乞食)
•はっかけ (はぬけ)
•はっくりけす (強くたたく)
•はつとばす (手で強く打つこと)
•はっぱ (葉)
•ぱっぱ (煙草)
•はねる (はせる)
•はらっぱ (原野)
•ばんげ (夜)
•はんぺた (半分)
•ばんぢ (熊手)
•ひき一 (ひくい)
•ひざんぼこ (膝頭)
•ひしゃぐ (ひしぐ)
•ひっかける (かける)
•ひっこぬく (引き抜く)
•ひっぺがす (はがす)
•ひっぺたく (たたく)
•ひとつきり (一時)
•ひね (古い)
•ひぼ (紐)
•ひぼっこ (紐)
•ひらった (拾った)
•ひょうぐる (ほとぼしる)
•ひよっこ (ひよこ)
•ぶち (焼餅素饅頭)
•ぶっくりけ一 (倒れる)
•ふくれる (腹を立てる)
•ぶるき (巡査)
•へあ (ハエ)
•へあ一 (灰)
•へあ一る (入る)
•べい (だろー)
•へいとう (乞食)
•へ一 (ハエ)
•べ一 (ばかり)
•へ一る (ほえる)
•へがす (はがす)

•へげ (ひげ)
•べこ (着物)
•へこたれる (くじける)
•へこむ (くぼむ)
•へたくそ (下手)
•へった (物の底)
•へつつい (かまど)
•べつとう (蛙)
•べつとうしゃう (蛙)
•へつぽこ (拙劣)
•へど (嘔吐)
•へなす (貶す)
•へなちよこ (弱虫)
•べべ (着物)
•べや (そうしやう、望み)
•べらぼ一 (非常に)
•べろ (舌)
•へらずぐち (必要なき悪口)
•ほうっこ (頬冠り)
•ほうたろ (蛍)
•ほ一る (投げる)
•ぼかん (気抜け)
•ほきる (萌え出る)
•ぼける (ぼやける)
•ほじる (掘る)
•ほそっこ (細紐)
•ほだ (そうだ) (同意)
•ぼたもち (おはぎ)
•ぼっこむ (入れる)
•ぼっこれる (壊れる)
•ほったらかす (ほって置く)
•ぼつと (偶然)
•ほつとく (かまはないでおく)
•ぼつとすると (若しかすると)
•ほっぺた (頬)
•ほら (自慢)
•ほりっこ (堀)
•ほれ (それ)
•ぼんくら (ぼんやり)
•ぼんつく (平凡)

- ・ほんと (本当)
- ・ほんなげる (放り投げる)
- ・ほんげに (実際そうに)
- 【ま行】
- ・まいった (死んだ)
- ・まぎめ (眉毛)
- ・まくる (めくる)
- ・まぐれる (迷ふ)
- ・まけっちょ (過失のこと)
- ・まける (あけるこぼす)
- ・まける (捨てる)
- ・まざる (混ざる)
- ・まじっぺい (まぶしい)
- ・ませぼ (馬栓棒・馬屋の出入口の棒)
- ・まつぼっくり (まつかさ・松の果実)
- ・まつつぐ (まっすぐ)
- ・まってる (待って居れ)
- ・まっと (もう少し)
- ・まて (質素)
- ・まねん (陰に)
- ・まみげ (まつげ)
- ・まめっちょ (小さい)
- ・まめでいる (健康でいる)
- ・まるくんぼ (丸太)
- ・まるつきり (全然)
- ・まるっこい (丸い)
- ・まんから (うそ)
- ・まんばち (うそ)
- ・まんま (飯)
- ・みちげーる (見違える)
- ・みっともねー (外聞がわるい)
- ・みろ (ごらんなさい)
- ・みやま (日影山)
- ・むさい (耐久力のある・卑しい・下品)
- ・むしょうに (限りなく)
- ・むっくらおき (早起き)
- ・めーましい (忌々しい)
- ・めかい (目簾)
- ・めげる (気が弱い)
- ・めっからねー (見つからない)

- ・めつけた (見つけた)
- ・めっためった (際限なく・滅茶苦茶)
- ・めど (小さい穴)
- ・めんこ (うどん類・子供の玩具で面子)
- ・めんめ (うどん)
- ・もーに (沢山のこと)
- ・もぐっつい (くすぐったい)
- ・もこへ (向うへ)
- ・もしき (たきぎ)
- ・もじゃくる (まるめてしまふ)
- ・もじょっけい (可愛い人)
- ・もてる (優遇される)
- 【や行】
- ・やー (赤んぼう)
- ・やあべー (行きませう)
- ・やがに (急に)
- ・やかん (禿頭)
- ・やきもち (嫉妬)
- ・やくざ
(つまらない・いい加減で役に立たない)
- ・やけくそ (自暴自棄)
- ・やけっぺー (焼けど)
- ・やし (人を呼ぶ時に用ふ)
- ・やしむ (怒る)
- ・やしんぼ (くいしんぼう)
- ・やせっぽ (やせている)
- ・やだ (嫌である)
- ・やだんべいに (いやです)
- ・やつ (お前)
- ・やつけい (厄介)
- ・やつこい (やはらかい)
- ・やつちゅーと (忽ち)
- ・やってんべー (して見やう)
- ・やっこせい (蟬の幼虫)
- ・やっこすつとこ (ようやく)
- ・やつぱし (やはり)
- ・やべ (行け)
- ・やま (森)
- ・ややっこしい (複雑な事)
- ・やろう (男の子)

- ・やらかす (実行する)
- ・やる (与へる)
- ・やれる (怒られる)
- ・やん (さん)
- ・やんなよ (やりなさるな)
- ・やんめ (はやり目)
- ・やんべ (やりしよう)
- ・ゆわ (岩)
- ・ゆわいる (結びつける)
- ・ゆんべ (昨夜)
- ・ようる (弄ぶ)
- ・よーさり (夜)
- ・よーはん (夕飯)
- ・よーべ (昨夜)
- ・よかんべー (よかろう)
- ・よたをする (悪事をする?)
- ・よっけしゃー (寄りなさい)
- ・よっぴて (徹夜して)
- ・よろ (夜)
- ・よんべ (昨夜)

【ら行】

- ・らあ (居る)
- ・らいさま (雷)
- ・らんとぼ (はかば)
- ・ろうでなし (役に立たぬ)
- ・ろくなこと (役に立つこと)

【わ行】

- ・わきっちよ (側)
- ・わきやない (造作ない)
- ・わきやねー (わけはない)
- ・わけえれ (若い衆)
- ・わけなし (限りなく)
- ・わざっと (寸志の意)
- ・わしげ (私の家)
- ・わしや (私は)
- ・わっか (輪)
- ・わっち (私)
- ・わにる (人に恥ずかしがる)
- ・わりい (悪い)
- ・わりめし (ひき割麦の入った飯)

- ・わりや (汝)
- ・われ (汝)
- ・われらー (私等)
- ・わんこ (犬)